倫理　テスト問題

**この授業を聞いて考えたことを論じなさい**

1. デカルト的懐疑
2. デカルトの心身問題
3. Generosite
4. Cogito Ergo Sum – 我考えるゆえに我あり  
   何が本物で何が幻想なのかわからない。何が実在するのか、何を信じればいいのか？  
   感覚は人間を欺く→ 何が確たる事実なのか判断できないということを思考実験的に明かした。  
   では、何を信じることができるか？見ている自分、考えている自分は疑いない事実である。  
   「私がここでこの手（実在するかどうかわからないこの手）を見ている自分の存在さえも否定すれば、私はあの狂人たちと何も変わらないだろう」←フーコー、デカルトは狂気をコギト（思考）から排除したという批判。  
   デカルトはこの後、すぐに思考に「夢」を包含した→論理性、正常性のみを認める思考ではなく、荒唐無稽で不合理な「夢」もその思考に含め、懐疑の対象を拡大した（デリダvsフーコーの論争）。  
   「私は思う」と私は思う　→ 思うこと自体の自明性が疑われる→ Post Modernism, Marx and Freud, Analytical Philosophy, 問題のある出発点。  
   スピノザは、一度も私は思うとは言っていない。
5. 心身、延長と精神　  
   延長 – 力と関係する、空間的な性質。３次元的。ライプニッツの多元論。  
   精神 – メタフィジカルな領域に属する。  
   情念 – 魂に起因するが、身体的な、空間的な発現を行う→ 精神と延長をつなげる。松果腺がそうではないか？　池谷祐二「単純な脳、複雑な『私』」、Other Minds   
   Derrida and technology – ゴーレム、人造人間 matter made from nothing. ファウスト博士、ゴーレムは、人間が神の技を模倣する、ex-nihilo を考察するための材料となった。How can we tell humans and automatons apart? 人間機械論、デカルトからラメトリ。人間は、細部まで神が作ったマシンであり、生物とマシンはantinomy ではない。→ Deleuze and Guattari 石黒浩  
   人間は、恒常性と外界に対する対処と順応が人間を形作る。身体に対する反応の総体を心として、内在的なものととるのか。 What makes a human a human, and a soul a soul. Alter ego